

ホスピス緩和ケア週間

IN TOKUSHIMA 2021

2021年10月3日(日)～10月9日(土)

ご挨拶

ホスピス緩和ケア週間 IN TOKUSHIMA 2021のパネル展によろこそ。

徳島でのホスピス緩和ケア週間は今年で16回目の開催です。コロナ感染拡大により、昨年につづいてWEBでのパネル展のみになりました。このパネル展は参加各医療機関のHPに掲載されています。2021年の世界ホスピスDAYは10月9日(土曜日)です。今年のテーマである「必要とするすべての人に届けよう、緩和ケア!!」に沿って、全国各地でホスピス緩和ケア週間に様々なイベントが行われます。

コロナ禍の2年間、緩和ケア病棟の運営は厳しくなっております。県内では近藤内科病院の緩和ケア病棟「ホスピス徳島」のみが運営しており、必要な緩和ケアの提供が十分できない異例の事態が続いています。今年のホスピスDAYのテーマの「必要とするすべての人に届けよう、緩和ケア!!」を、今後どのように現場で達成することができるのかが今回のパネル展の課題です。

コロナ禍のなかでの緩和ケアの提供の工夫は「連携の進歩」と「AIの活用」です。まず緩和ケアについての連携の進歩についてです。各病院では感染予防が徹底されており、家族の付き添いが著しく制限されています。このため人生の最期を家族といっしょに自宅で過ごしたい、家で看病したいという希望が多くありました。このご希望に応えるため、在宅医療専門のクリニックやかかりつけ医の診療所と一緒に患者さんをケアすることで緩和ケアの連携が進んできました。また、最近のがん治療の進歩により緩和ケア病棟を退院する患者さんは40%を超えており、在宅での緩和ケアの必要が高まっています。この連携の進歩により地域包括ケアシステムのなかで在宅緩和ケアが発展すると思われま。

緩和ケア病棟内での連携の工夫について、患者・家族のコミュニケーションが遮断されている状況の打開策として、職種間を超えたチーム医療の充実を図りました。それは入浴・排泄ケア、食事介助、院内ボランティア活動のティーサービスなどで成果が現れています。AIの活用はテレビ電話・ライン・ZOOMなどを用いて家族と患者さん、家族とスタッフのコミュニケーションを確保してまいりました。

ワクチン接種が浸透したことにより新型コロナウイルス感染が抑制され、カクテル抗体が日常診療で用いられるようになり感染による生命の危険が遠のきつつあります。2022年春には穏やかな日常が取り戻せると期待しております。私たち緩和ケアに携わる医療者は、コロナ感染で学んだ緩和ケア連携の強化とAIの活用をさらに進めていきたいと考えています。

特定NPO法人 | ホスピス徳島がん基金
理事長 近藤 彰

